

乳がん検診とクーポン券 広報げろ 2010.4

乳がん検診とクーポン券

◎日本では女性 20 人に一人が乳がんになっています。乳がんはがんのなかでも治りやすいといわれていますがそれでもその三分の一は再発し、そのためにいつかは死亡する病気なのです。

◎日本人の乳がんは 40 歳代後半にもっとも多く発見されています。この年代は社会的にも家庭でも最も責任の多い年代だからこそ大きな影響を及ぼします。

◎クーポン券は、乳がん検診の大切さを訴え、検診受診率向上を目指して 40, 45, 50, 55, 60 歳の全国女性に国から発行されました。しかし、検診は無料だから受けようというものでなく、費用を負担してでも受けるという態度が救命につながると考えます。またクーポン券ではマンモグラフィーによる検診で、超音波検査は認められていません。

◎マンモグラフィーは万全ではありません。マンモグラフィーによる検診で精密検査が必要という結果が届くと、乳がんの疑いと受け止められる方がほとんどですが、実情は、マンモグラフィーだけでは判断できないので超音波検査も受けましょうということです。実際マンモグラフィー検診で見つかる乳がんはほんのわずかです。また、マンモグラフィーで異常がなければ安心というわけにもいきません。日本人の乳がん年齢の乳房はマンモグラフィーでは判断しにくい構造であることが多く、がんを見逃すこともあります。国がマンモグラフィーによる検診を勧めるのは、不十分であっても検診を受けないより受けたほうが早期発見、救命につながると考えているからでしょう。

◎超音波検査を受けましょう。日本人の乳房の構造は超音波検査に適しています。そのため超音波検査は日本で発達しました。マンモグラフィーが影を見て診断するのに対して超音波検査は乳房の断面を見て診断するのでよくわかります。検診はマンモグラフィーと超音波検査の両方を行うのが理想的ですがどちらか一方を選ぶとすれば 60 歳以上はマンモグラフィー、50 歳代までは超音波検査を選択するのが最善と考えています。

◎早期発見のためには月一回の自己検診が大切です。生理のある人は生理が終わるころ、閉経後は日を決めて月に一回自己検診しましょう。そのコツは右左の同じ場所を比べて左右差があれば要注意です。

◎検診は乳房に全く異常を感じていない人が受けるものです。乳房に少しでも異常を感じた場合、病院で経過観察と言われた場合などは保険証を持って乳腺外来を受診しましょう。

◎乳癌は全身病ともいわれ、長期間にわたる経過観察が必要です。下呂市立金山病院では診断から治療、その後の経過観察まで地域に密着した支援をしていきます。

◎乳がん検診受診者が増える中で下呂市においても検診を担当する医師の不足からご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

下呂市立金山病院 院長 乳腺外来 古田智彦